

## 6 問題別の考察及び指導上の留意点

### (1) 発音問題

出題のねらい：母音及び子音の正しい識別を測る。	
【1】 次の(1)～(5)の語について、下線部の発音が同じものをア～エから一つずつ選び、記号で答えなさい。	
(1) <u>grow</u>	[ ア down      イ how      ウ know      エ town ]
(2) <u>heavy</u>	[ ア already      イ great      ウ real      エ weak ]
(3) <u>enough</u>	[ ア caught      イ laugh      ウ through      エ weigh ]
(4) <u>either</u>	[ ア anything      イ math      ウ mouth      エ though ]
(5) <u>wear</u>	[ ア bear      イ dear      ウ hear      エ year ]
配点 10点 (各2点)	
正解 (1) ウ (2) ア (3) イ (4) エ (5) ア	

<抽出答案における【1】小問別正答率(%)>

学科・人数	全体	普通科	総合学科	商業科系	家庭科系	英語科系	他の学科
小問	3,204	2,843	148	52	72	16	73
(1) <u>grow</u>	66.6	90.8	91.6	88.5	88.5	77.8	80.8
(2) <u>heavy</u>		61.1	63.3	43.9	42.3	36.1	45.2
(3) <u>enough</u>		60.8	62.7	45.9	40.4	45.8	43.8
(4) <u>either</u>		60.6	61.9	52.0	46.2	44.4	52.1
(5) <u>wear</u>		59.7	60.8	52.7	51.9	47.2	43.8

本年度は、小問(1)、(2)、(5)を母音に関する問題、(3)、(4)を子音に関する問題とした。本問における調査校全体の抽出答案による正答率(以下、調査校全体の正答率)は66.6%であった。

以下、平均点順位が中位にある全日制課程普通科生徒100名の答案(分析答案)を抽出して、小問別に誤答分析を試みた。なお、誤答分析に用いた分析答案は、設問【2】以降も同様の方法で抽出した。

<分析答案による誤答数>

小問	誤答数	記号	発音	各誤答数	小問	誤答数	記号	発音	各誤答数
(1) <u>grow</u> [ou]	3	ア	[au]	1	(4) <u>either</u> [ð]	41	ア	[θ]	16
		イ	[au]	1			イ	[θ]	13
		ウ	正答 <u>know</u>	/			ウ	[θ]	12
		エ	[au]	1			エ	正答 <u>though</u>	/
(2) <u>heavy</u> [e]	41	ア	正答 <u>already</u>	/	(5) <u>wear</u> [eə]	44	ア	正答 <u>bear</u>	/
		イ	[ei]	26			イ	[iə]	15
		ウ	[i:ə]	8			ウ	[iə]	16
		エ	[i:]	7			エ	[iə]	13
(3) <u>enough</u> [f]	42	ア	[*]	7	注：[*]は黙字				
		イ	正答 <u>laugh</u>	/					
		ウ	[*]	19					
		エ	[*]	16					

<考察>

小問(1)は、-ow-の発音を問う問題で、調査校全体の正答率は90.8%と本問中最も高かった。見出し語の grow や know にある -ow- の発音はよく理解されている。

小問(2)は、-ea- の発音を問う問題で、調査校全体の正答率は 61.1%であった。誤答 41 例のうち 26 例が **イ great** であった。これは、**great** の二重母音 [ei] を正しく理解していないからであると思われる。

小問(3)は、-gh- の発音を問う問題で、調査校全体の正答率は 60.8%であった。誤答は **ウ through** と **エ weigh** に多く、-gh で終わる単語の発音が理解できていない。

小問(4)は、-th- の発音を問う問題で、調査校全体の正答率は 60.6%であった。誤答は分散しており、[ð] と [θ] の発音は、正しく理解できていないと考えられる。

小問(5)は、-ear の発音を問う問題である。調査校全体の正答率は 59.7%であり、誤答は分散していた。[eər] と [iər] の発音を正しく理解できなかったためと思われる。

<指導上の留意点>

<問題点>

- ① 小問(2)、(5)に見られるように、二重母音が含まれる単語を正確に発音できない。
- ② 小問(3)に見られるように、読まないつづりが含まれる単語を正確に発音できない。

<具体的な指導例>

- ① 発音記号を参考にして、正確な発音を示しながら反復練習をさせる。特に、日本語の片仮名表記の影響を受けやすい二重母音を含む語には気を付けさせる。
- ② つづりと発音の関係を示しながら、教室内で行われるあらゆるコミュニケーション活動を通して、正確な発音を身に付けさせる。

【例】① [ei]: baseball / break / cake / case / change / danger / date / face / game / pace / vacation

② through / weigh / climb / lamb / know / knee / fasten / hasten / align / sign / castle / whistle

【指導手順の例】

身に付けさせたい発音を含む語を示し、音声を聴かせながらつづりと発音の関係に気付かせる。次に、絵や図を用いて口の形と舌の位置を示し、息の使い方も意識させて生徒に発音させる。さらに、それらの語を使用して、意味の通る文を作らせる。それをペアやグループで発表させ、適切に伝わるかどうかを確認させる。

## (2) 語彙問題

出題のねらい：基本的な語彙が身に付いているかを測る。

【2】 次の(1)～(10)の文中の( )内に、与えられた文字で始まる最も適当な語を一つ書きなさい。

- (1) Today is a (h ), so I don't have to go to school.
- (2) I have to do a lot of homework (d ) the summer vacation.
- (3) Is your (p ) of visiting Japan sightseeing?
- (4) Ichiro is very (f ) as a good baseball player. Everyone knows him.
- (5) If you don't practice hard, your team will (l ) in the next game.
- (6) A: Hello. This is Kumi. Is this Mr. Kato?  
B: Sorry. I think you have the (w ) number.
- (7) A: Will you watch the soccer game on TV tonight?  
B: Yes, of course. I won't (m ) it!
- (8) A: Are you for or (a ) this idea?  
B: I think it's good.
- (9) A: How many children do you have?  
B: We have two sons and a (d ).

(10) A: Is it (d ) to use this computer?  
B: No, it isn't. It's very easy.

配点：10点（各1点）

正解：(1) holiday (2) during (3) purpose (4) famous (5) lose  
(6) wrong (7) miss (8) against (9) daughter (10) difficult

<抽出答案における【2】小問別正答率（%）>

学科・人数 小問	全 体 3,204	普 通 科 2,843	総合学科 148	商業科系 52	家庭科系 72	英語科系 16	他の学科 73	
(1) holiday	41.2	47.7	49.9	35.8	13.5	27.8	62.5	27.4
(2) during		52.9	55.9	30.4	23.1	29.2	75.0	23.3
(3) purpose		24.7	26.7	8.8	5.8	4.2	43.8	8.2
(4) famous		55.9	58.3	35.8	34.6	44.4	75.0	26.0
(5) lose		42.9	45.8	20.9	9.6	20.8	62.5	17.8
(6) wrong		31.8	33.8	17.6	5.8	8.3	75.0	12.3
(7) miss		35.7	37.9	18.9	11.5	13.9	56.3	19.2
(8) against		28.5	30.4	17.6	5.8	6.9	43.8	11.0
(9) daughter		28.7	30.6	12.2	9.6	9.7	50.0	12.3
(10) difficult		62.9	65.4	47.3	32.7	44.4	87.5	31.5

調査校全体の正答率は41.2%であった。

<過年度類題正答率（%）>

小問	25年度正答率	過年度正答率（出題年度）			
(1) holiday	47.7	47.3 (21年度)	43.1 (19年度)	53.7 (11年度)	49.4 (7年度)
(2) during	52.9	39.4 (19年度)	38.4 (15年度)		
(4) famous	55.9	41.3 (20年度)	35.2 (15年度)		
(6) wrong	31.8	67.4 (24年度)	68.6 (22年度)	62.6 (16年度)	42.6 (13年度)
(9) daughter	28.7	48.3 (14年度)	51.1 (12年度)		
(10) difficult	62.9	70.0 (23年度)	74.1 (17年度)		

<分析答案による誤答数と主な誤答例>

小問	誤答数	つづりの誤り（数）		その他の誤り（数）		無答
(1) holiday	51	24	holyday (9), horiday (4), holliday (3) 等	19	hot (7), happy (6), headache (3), hospital (2) 等	8
(2) during	49	17	dring (7), duaring (3), duling (3) 等	19	doing (12), different (2), difficult 等	13
(3) purpose	81	21	porpose (5), purpas (3), purpuse (2), perpose (1) 等	48	parents (18), plan (8), popular (5), people (3), passport (3) 等	12
(4) famous	35	8	famouse (2), famos (1), famus (1) 等	21	fast (6), fine (5), favorite (3), fun (2), fan (2), fight (2) 等	6
(5) lose	61	0		47	lost (15), learn (6), low (5), leave (6), lead (3), loss (2) 等	14

(6) wrong	78	7	worrying (3), worning (1) 等	37	worry (11), wrote (4), weak (2), want (2), window (2) 等	34
(7) miss	76	1	mes (1)	51	make (10), must (8), meet (7), move (7), mean (3) 等	24
(8) against	83	2	ageinst (1), aggainst (1)	60	agree (25), another (10), about (5), as (3), any (2) 等	21
(9) daughter	80	42	dauter (7), douthter (6), doughter (4), daghter (4) 等	10	dog (4), danger (3), dream (1), dangerous (1), died (1)	28
(10) difficult	34	16	dificult (8), diffucult (5), difficoult (1) 等	11	doing (6), different (3), drive (1), dream (1)	7

<考察>

小問(1)から(5)は文中の適語補充問題、(6)から(10)は対話文中の適語補充問題となっている。

小問(1) holiday の調査校全体の正答率は47.7%であった。誤答51例のうち、「つづりの誤り」は24例あり、多くの生徒が文意は理解したようである。また、「その他の誤り」に、I don't have to go to school という表現から連想される言葉も見られる。

小問(2) during の調査校全体の正答率は52.9%であった。過年度と比較すると正答率が上がったが、誤答49例のうち、「つづりの誤り」が17例と多かった。

小問(3) purpose の調査校全体の正答率は24.7%と本問中最も低かった。誤答81例のうち、「その他の誤り」は48例あり、様々であった。purpose という語はあまりなじみがなく定着していないようである。

小問(4) famous の調査校全体の正答率は55.9%であった。「つづりの誤り」が8例あり、過年度と比較して正答率が高くなっている。

小問(5) lose の調査校全体の正答率は42.9%であった。動詞 lose は、「(試合に)負ける」という意味ではあまり理解できていないと思われる。

小問(6) wrong の調査校全体の正答率は31.8%であった。無答が34例と多く、you have the wrong number という表現では定着していないと考えられる。

小問(7) miss の調査校全体の正答率は35.7%であった。無答が24例と多く、文脈から適切な表現を思い浮かべることができなかつたようである。

小問(8) against の調査校全体の正答率は28.5%で低かった。誤答83例のうち、「つづりの誤り」は2例のみで、ほとんどが「その他の誤り」であった。for or against という既習表現を文脈の中で活用できなかった。

小問(9) daughter の調査校全体の正答率は28.7%で低かった。「つづりの誤り」が42例と最も多く、多くの生徒が daughter を思いついていても、正確につづることができなかつた。

小問(10) difficult の調査校全体の正答率は62.9%で最も高かった。誤答34例のうち、「つづりの誤り」が16例あり、意味は分かっているにもかかわらず正確につづることができなかつた。

<指導上の留意点>

<問題点>

- ① 小問(1), (9)に見られるように、単語の発音とつづりが正確に結び付いていない。
- ② 小問(5), (6), (7), (8)に見られるように、文脈や対話に応じて適切な語彙を用いて表現できない。

<具体的な指導例>

- ① 定着させたい語のつづりと発音の関係を示した上で、フラッシュカード等を使用し、つづりの全体像を見て素早く発音する練習をさせる。その際、つづりを書かせると効果的である。
- ② 辞書を使って定着させたい語の用例をいくつか書き出させ、グループ分けした生徒にそれぞれの用例を用いた会話文を作成させる。各グループで作成した会話文を発表させる。

【会話文の例】 定着させたい語：wrong 下線部：用例

- (1) A : You look tired. What's wrong?  
 B : I stayed up late last night. I have a headache.  
 A : I'm sorry to hear that. Take care.
- (2) A : I was waiting for you at the station. Why didn't you come?  
 B : I'm so sorry. I took a wrong train. It didn't stop at the station.  
 A : You should have checked the timetable.

(3) 文法・語法問題

出題のねらい：機能語の働きと基本的な文法事項の理解度を測る。

【3】 次の(1)～(5)がそれぞれ正しい文になるように、ア～エから最も適当な語(句)を選び、記号で答えなさい。

- (1) I got up late this morning, (ア because イ but ウ so エ though) I couldn't get on the first train.
- (2) The concert will continue (ア after イ before ウ for エ until) 9 o'clock.
- (3) What is the language (ア speak イ speaking ウ spoke エ spoken) in Australia?
- (4) A: (ア How イ What ウ When エ Where) do you go to school?  
 B: I usually go by bus.
- (5) A: (ア Do イ May ウ Must エ Will) I see your passport?  
 B: Of course.

配点：10点(各2点)

正解 (1) ウ (2) エ (3) エ (4) ア (5) イ

<抽出答案における【3】小問別正答率(%)>

学科・人数	全体	普通科	総合学科	商業科系	家庭科系	英語科系	他の学科
小問	3,204	2,843	148	52	72	16	73
(1) so	67.0	56.8	59.5	34.5	36.5	36.1	30.1
(2) until		45.3	47.6	29.7	23.1	20.8	21.9
(3) spoken		67.5	69.9	49.3	42.3	44.4	47.9
(4) How		75.3	77.3	62.2	50.0	66.7	43.8
(5) May		89.9	90.3	92.6	82.7	83.3	76.7

調査校全体の正答率は67.0%であった。

<過年度類題正答率(%)>

小問	25年度正答率	過年度正答率(出題年度)		
(1) 接続詞 so の用法	56.8	61.7 (21年度)	62.1 (18年度)	67.7 (17年度)
(4) 疑問詞 how の用法	75.3	70.0 (16年度)		
(5) 助動詞 may の用法	89.9	75.8 (23年度)	59.0 (16年度)	

<分析答案による誤答数>

小問	誤答数	ア	イ	ウ	エ	無答
(1) so	56	34	18	正答	3	1
(2) until	77	22	11	43	正答	1
(3) spoken	31	11	16	3	正答	1
(4) How	29	正答	16	9	3	1
(5) May	11	2	正答	5	3	1

<考察>

小問(1)は、文脈に合う適切な接続詞 so を選ぶ問題である。調査校全体の正答率は 56.8%であった。誤答 56 例のうち 34 例は ア because で、「結論を示す節」を導く so と「原因を説明する節」を導く because の用法を混同していると考えられる。

小問(2)は、前置詞 until を選ぶ問題である。調査校全体の正答率は 45.3%と本問中最も低かった。until の意味や用法が十分に理解されていないと考えられる。

小問(3)は、後置修飾の過去分詞 spoken を選ぶ問題である。調査校全体の正答率は 67.5%であった。誤答 31 例のうち 16 例が イ speaking であった。名詞を修飾する現在分詞と過去分詞の区別ができていない生徒がいる。

小問(4)は、疑問詞 How を選ぶ問題である。調査校全体の正答率は 75.3%とよくできていた。手段を尋ねる How の用法については理解されている。

小問(5)は、助動詞 May を選ぶ問題である。調査校全体の正答率は 89.9%と本問中最も高かった。許可を求める May I の用法についてはよく理解されている。

<指導上の留意点>

<問題点>

小問 (1), (2) に見られるように、接続詞や前置詞の用法が十分理解できていない。

<具体的な指導例>

一つの英文に対し複数の接続詞や前置詞を与え、それぞれの役割を考えながら、それに続く部分を作らせる。

- (1) I got up late this morning, so I couldn't catch the first train.
- (2) I got up late this morning, because I was very tired.
- (3) I got up late this morning, but I was in time for school.
- (4) The examinations are approaching, so you have to study for three hours.
- (5) The examinations are approaching, so you have to study until 10 o'clock.
- (6) The examinations are approaching, so you have to study after dinner.

(4) 文法・表現問題

出題のねらい：基本的な文法事項の運用能力を測る。

【4】 次の(1)～(5)の**ア**と**イ**の文の内容がほぼ同じになるように、( )内に最も適当な語を一つずつ書きなさい。

- (1) **ア** I was happy to hear the news.  
**イ** The news ( ) ( ) happy.

- (2) ア Keiko works as a nurse.  
イ ( ) care of sick people is Keiko's job.
- (3) ア Your shoes aren't as big as mine.  
イ Your shoes are ( )( ) mine.
- (4) ア If you study hard, your dream will come true.  
イ Study hard, ( ) your dream will come true.
- (5) ア My parents went to Hokkaido two days ago. They are still there.  
イ My parents ( ) been in Hokkaido ( ) two days.

配点：15点（各3点，部分点なし）

正解 (1) (made)(me) (2) (Taking) (3) (smaller)(than)  
(4) (and) (5) (have),(for)

<抽出答案における【4】小問別正答率（%）>

学科・人数 小問	全 体 3,204	普 通 科 2,843	総合学科 148	商業科系 52	家庭科系 72	英語科系 16	他の学科 73	
(1) made me	40.3	55.8	58.7	37.2	30.8	29.2	75.0	20.5
(2) Taking		26.5	28.5	12.2	3.8	5.6	43.8	8.2
(3) smaller than		52.7	55.7	36.5	17.3	23.6	75.0	20.5
(4) and		19.2	21.1	3.4	1.9	1.4	31.3	2.7
(5) have, for		47.4	49.9	35.1	17.3	25.0	56.3	17.8

調査校全体の正答率は40.3%であった。

<過年度類題正答率（%）>

小問	25年度 正答率	過年度正答率（出題年度）
(1) make + O + C	55.8	58.1（12年度）She felt happy to hear the news. → The news ( made ) her happy.
(3) A aren't as big as B → A are smaller than B	52.7	52.3（21年度）A is not as large as B → A is ( smaller ) ( than ) B 52.8（20年度）A is not as long as B → A is ( shorter ) ( than ) B 55.6（16年度）A is not as big as B → A is ( smaller ) ( than ) B
(5) 現在完了（継続）	47.4	38.6（24年度）He ( has ) ( been ) a math teacher for twenty years. 49.2（22年度）My father ( has ) ( been ) sick since ~ 54.7（10年度）My father ( has ) ( been ) sick for three days.

<分析答案による誤答数と主な誤答例>

小問	誤答数	誤答例（数）	無答
(1) made me	43	make / makes me (26), made to (3), hear me (2), その他 (12)	0
(2) Taking	80	Take (52), Be (7), To (4), Help (3), Takes (3), Helping / Kinding / Working (3), Took (1), その他 (4)	3
(3) smaller than	40	bigger / bigger than (17), smaler / smoler / smoller / smouler / smourer / sorler than (7), small / little than (4), shorter than (2), その他 (7)	3
(4) and	84	if (25), so (19), because (9), become (3), to (3), can (2), that (2), その他 (7)	14
(5) have, for	60	has / had for (27), have / has / had since (19), are / been / was for (4), その他 (9)	1

<考察>

小問(1)は、make + O + C を問う問題である。調査校全体の正答率は 55.8%であった。誤答 43 例のうち 26 例は make / makes と me を使って表現していた。make + O + C は理解していると思われるが、時制にまで注意が及ばなかった。

小問(2)は、動名詞の用法を問う問題である。調査校全体の正答率は 26.5%であった。誤答 80 例のうち、56 例が take care of ～ を理解しているが、take を動名詞にできなかった。

小問(3)は、not as ～ as を比較級を用いて表現する問題である。調査校全体の正答率は 52.7%であった。誤答 40 例のうち 17 例は bigger / bigger than であり、これは not as ～ as の内容を正しく捉えていなかったためと思われる。

小問(4)は、命令文に続く and の用法を問う問題である。調査校全体の正答率は 19.2%と本問中最も低かった。無答も 14 例あり、命令文の後に用いる and の用法を思いつかなかったようだ。

小問(5)は、ある状態が続いていることを表す現在完了とその期間を表す for の用法を問う問題である。調査校全体の正答率は 47.4%であった。誤答 60 例のうち、for を用いたものは 31 例あり、期間を表す for の用法はある程度定着していると思われる。現在完了の have を正しく用いていない誤答が目立った。

<指導上の留意点>

<問題点>

小問(2)、(4)に見られるように、同じ内容を多様に表現することができない。また、小問(1)、(5)に見られるように、主語や時制に応じて動詞を適切な形で用いることができない。

<具体的な指導例>

習得させたい表現を使用する場面を設定し、ペアワークで練習させる。その後、ペアを変えて以前の相手と行った会話の内容を伝え合う活動を行う。

【完了形を使ったペアワークの例】

A: How long have you been in Aichi?

B: I have been in Aichi for three years. How about you?

A: I have been here for ten years.

ペアを変えて、

A: Student B has been in Aichi for three years. How long have you been in Aichi?

C: I have been in Aichi since I was born.

【make + O + C を使ったペアワークの例】

A: Today's small quiz was cancelled.

B: I'm happy to hear that.

ペアを変えて、

C: Student B looks happy. Why?

A: Today's small quiz was cancelled. It made him / her happy.

【動名詞を使ったペアワークの例】

A: How do you feel relaxed?

B: I feel relaxed when I take a walk with my dog.

A: Taking a walk with your dog makes you feel relaxed, right?

ペアを変えて、

C: I feel nervous. How can I get relaxed?

A: Take a walk with your dog and you will feel relaxed.

(5) 口語表現問題

出題のねらい：基本的な口語表現の理解度を測る。

【5】 次の英文は Bob と Eri の対話です。(1)～(5)に入る最も適当な表現を下のア～コから選び、記号で答えなさい。ただし、各表現は一度しか使えません。

Bob : Good morning, Eri. ( 1 )  
 Eri : Sure. What is it?  
 Bob : My host mother gave me a present, but I don't know how to use it.  
 Eri : ( 2 )  
 Bob : Here you are. Is it a big handkerchief or something?  
 Eri : No, it isn't. It's *furoshiki*.  
 Bob : *Furo*... ( 3 )  
 Eri : *Fu-ro-shi-ki*. It is a traditional Japanese piece of cloth and has a history of more than 400 years.  
 Bob : ( 4 )  
 Eri : Today, it is used to wrap and carry things. You can wrap anything such as books, clothes, and bottles.  
 Bob : ( 5 )  
 Eri : I agree. It is good for the environment because you can use it many times. When you don't use it, you can fold it up and keep it in your pocket.  
 Bob : I want more people to use *furoshiki*.

- |                         |                            |                                     |
|-------------------------|----------------------------|-------------------------------------|
| ア I used it last year.  | イ How about you?           | ウ People call it <i>furoshiki</i> . |
| エ I didn't know that.   | オ Can I ask you something? | カ Do you like it?                   |
| キ Please show it to me. | ク How much is it?          | ケ It's very convenient.             |
| コ Pardon?               |                            |                                     |

配点：10点（各2点）

正解 (1)オ (2)キ (3)コ (4)エ (5)ケ

<抽出答案における【5】小問別正答率（%）>

学科・人数	全 体	普 通 科	総合学科	商業科系	家庭科系	英語科系	他の学科	
小問	3,204	2,843	148	52	72	16	73	
(1) Can I ask you something?	73.5	71.0	73.3	58.1	51.9	50.0	93.8	39.7
(2) Please show it to me.		83.2	84.8	69.6	75.0	72.2	93.8	65.8
(3) Pardon?		84.1	84.8	81.8	90.4	68.1	87.5	72.6
(4) I didn't know that.		61.4	63.4	48.0	46.2	38.9	81.3	38.4
(5) It's very convenient.		67.8	69.6	57.4	51.9	52.8	100.0	37.0

調査校全体の正答率は73.5%であった。

<分析答案による誤答数>

小問	誤答数	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	無答
(1) Can I ask you something?	29	1	21	0	2	正答	1	3	0	1	0	0
(2) Please show it to me.	13	2	1	2	2	1	2	正答	2	1	0	0
(3) Pardon?	7	0	0	0	3	3	0	0	1	0	正答	0
(4) I didn't know that.	38	8	6	1	正答	8	6	1	1	5	0	2
(5) It's very convenient.	27	3	10	0	0	4	5	2	1	正答	0	2

<考察>

小問(1)は、挨拶の後、Bob が Eri に頼みごとがあると切り出す場面である。調査校全体の正答率は71.0%であった。誤答29例のうち21例が イ How about you? に集中しており、Sure. という応答から正答を導き出すことができなかったようである。

小問(2)は、もらったプレゼントの用途を知りたいと言う Bob に対して、Eri が「私に見せてください」と答える場面である。調査校全体の正答率は 83.2%と本問中二番目に高かった。直後の Bob のせりふ Here you are. から答えやすかったと考えられる。

小問(3)は、Bob が「風呂敷」という単語を正しく聞き取れず、聞き返す場面である。調査校全体の正答率は 84.1%と本問中最も高かった。Pardon? の用法については、定着していると言える。

小問(4)は、風呂敷についての知識が全くなかった Bob が Eri からその歴史を初めて聞き、それに対する相づちを打つ問題である。調査校全体の正答率は 61.4%であった。誤答は分散しており、直前の Eri の説明を正しく読み取れなかったと思われる。

小問(5)は、Eri から風呂敷の用途についての説明を聞き、それに対して Bob が感想を述べる場面である。調査校全体の正答率は 67.8%であった。直後に Eri が I agree. と賛同していることから、正答を導きやすかったと思われる。

<指導上の留意点>

<問題点>

基本的な会話表現は定着しているが、小問(4)、(5)に見られるように、会話の中で相づちを打ったり、感想を述べたりする場面において、適切な表現を用いることができない。

<具体的な指導例>

Pardon? や You're welcome. などの基本的な表現を用いたスキットをペアで考え、発表させる。徐々に複雑な場面(誘う、断る、主張するなど)を設定し、活動させることにより、会話表現の幅を広げさせる。

【Pardon? の例】

A: Our new ALT is from Cincinnati.

B: Pardon? Cincinnati ...

A: Cin-cin-nat-i. It is a city of Ohio.

【I'm looking forward to it. の例】

A: Let's go to the movies together.

B: OK. When and where shall we meet?

A: Let's meet in front of the station at 1:30. Is that OK?

B: Sure. I'm looking forward to it.

## (6) 整序・作文問題

出題のねらい：単語を並べ替えて正しい英文を構成する力、基本的な英語表現能力を測る。

【6】 次の(1)～(3)の日本語の意味を表すように、下に与えられた語を全部用いて、英文を作りなさい。また、(4)は下線部(A)と(B)の日本語を英文に直しなさい。

(1) 私はどうして彼がそう言ったのかわからない。

[don't / he / I / know / said / so / why]

(2) あなたの自転車を見せてもらえませんか。

[me / you / show / your / could / bike]

(3) 向こうに立っている人が私たちの先生です。

[is / man / our / over / standing / teacher / the / there]

(4) 「よく海外旅行に行きますか。」

「はい。(A)私は7か国を訪問したことがあります。あなたはどうか。」

「私は海外に行ったことはありません。どの国が一番好きですか。」

「(B)私はカナダが一番好きです。」

配点 15点 (各3点 部分点なし)

正答 (1) I don't know why he said so.

(2) Could you show me your bike?

(3) The man standing over there is our teacher.

(4) (A) I {have visited / have been to}{seven / 7} countries.

(B) I {like / love} Canada [the] best.

<抽出答案における【6】小問別正答率(%)>

学科・人数 小問	全 体 3,204	普 通 科 2,843	総合学科 148	商業科系 52	家庭科系 72	英語科系 16	他の学科 73		
(1)	55.2	64.5	67.6	43.2	38.5	37.5	87.5	30.1	
(2)		88.0	89.4	75.7	80.8	83.3	100.0	68.5	
(3)		53.9	56.6	35.1	23.1	27.8	75.0	28.8	
(4)		(A)	35.2	37.6	17.6	9.6	12.5	56.3	12.3
		(B)	34.4	36.9	16.2	9.6	11.1	75.0	8.2

小問(1)～(3)は整序問題、小問(4)は日本語の内容を英語で表現させる形式とした。調査校全体の正答率は55.2%であった。

<過年度類題正答率(%)>

小問	25年度正答率	過年度正答率(出題年度)
(1) 間接疑問	64.5	53.0 (23年度) Do you know where she will go tomorrow? 69.2 (22年度) I don't know who he is. 59.8 (20年度) Do you know who he is?
(3) 現在分詞	53.9	55.1 (18年度) Who is that boy riding a bike? 71.2 (17年度) The man wearing glasses is my father.
(4) (A) 現在完了 (経験)	35.2	35.4 (24年度) Have you ever read them? 72.8 (22年度) Have you ever been to Okinawa? 36.0 (19年度) I have never been there.
(4) (B) 最上級	34.4	36.5 (22年度) I like swimming (the) best. 38.6 (16年度) I like tea (the) best. 46.7 (10年度) I like this song (the) best.

<分析答案による誤答数>

小問	分析答案における誤答数	
(1)	32	
(2)	8	
(3)	43	
(4)	(A)	70
	(B)	74

<考察>

小問(1)は、間接疑問の用法を理解しているかを確認する問題である。調査校全体の正答率は64.5%であった。

誤答例 I don't know why he so said.

17例

誤答32例のうち17例がsoを正しい位置で用いることができなかった。

小問(2)は、**Could you ~?** の用法を理解しているかを確認する問題である。調査校全体の正答率は 88.0%と本問中最も高かった。**Could you ~?** の用法はよく定着しているようである。

小問(3)は、現在分詞の後置修飾を理解しているかを確認する問題である。調査校全体の正答率は 53.9%であった。

誤答例	The man is our teacher standing over there.	11 例
-----	---	------

分詞が修飾する名詞の判別が曖昧であり、主語を後置修飾する現在分詞の用法も定着していないと考えられる。

小問(4)(A)は、自身の経験について述べる文を作ることができるかを確認する問題である。調査校全体の正答率は 35.2%と低かった。

誤答例	① I have (ever) visited to seven countries.	10 例
	② 無答	8 例
	③ I have visited in seven countries.	7 例

誤答 70 例のうち 44 例は **have + 過去分詞** の形は思いついたようだが、17 例が **visited** の後に前置詞をつけており、他動詞 **visit** の用法を理解していないようである。また、**countries** を正しく書いていない誤答も多く見られた。

小問(4)(B)は、最も好きなものを述べる文を作ることができるかを確認する問題である。調査校全体の正答率は 34.4%と本問中最も低かった。

誤答例	① I like (the) best Canada.	19 例
	② I like (the) best [in / of] Canada.	10 例
	③ I like (the) best is Canada.	8 例

誤答 74 例のうち 37 例が **I like (the) best** で文を始めており、副詞として **best** という語は思いついたものの、正しい位置で用いていない誤答が目立った。

<指導上の留意点>

<p>&lt;問題点&gt;</p> <p>小問(4)のように、既習の文法事項を基本的な動詞や副詞と共に与えられた状況の中で適切に活用することができない。</p>
<p>&lt;具体的な指導例&gt;</p> <p>「私の好きなもの」などテーマを決めて、定着させたい表現を使った英文を作らせ、相手に伝わるようにペアやでグループで発表させる。また、発表について質問するなど会話をさせる。</p> <p>【発表の例】</p> <p>I like movies. I often see movies with my father. I have seen movies about 10 times since last year. I like <i>E.T.</i> best.</p> <p>【会話の例】</p> <p>A: Who do you like best in <i>E.T.</i>? B: I like Elliot best. A: Why? B: Because he is very kind.</p>

(7) 長文読解問題

出題のねらい：比較的長い英文を読み取る力を測る。

【7】次の英文を読んで、あとの問いに答えなさい。

Bob was beginning to forget things. One day when he went shopping, he forgot what to buy. He often forgot about his keys, his umbrella, or money when he left home. (1)His wife Kate and his children worried about him. So they decided to take some pictures of things Bob forgot, and put them on the wall in their living room. Bob sometimes could not remember people's names. So they put a lot of pictures of people with their names on the wall. At night, Bob and his family enjoyed talking about the pictures on the wall in their living room. ア

One day Bob said to his friend, "I don't want to forget important things." "It is useful to write things on a piece of paper," said his friend. イ Bob wrote what to buy on a piece of paper, but ( 2 ). Also, when he went out with the paper, he couldn't remember where the paper was in his bag. ウ

In December, on Kate's birthday, the children wanted Bob to buy Kate's birthday cake. Bob wrote the word "CAKE" on his left hand and "BIRTHDAY" on his right hand. エ Kate and her children were making things for the party and cooking dinner. When Bob got home, he said, "Oh, no. Cake. I forgot it!" One of his children said, "You didn't ( 3 ). Why?" Bob said, "It was very cold outside. I was wearing my gloves, so I couldn't see my hands. I'm very sorry." The children felt very sad. But Kate was ( 4 ). She said, "Don't worry. Yesterday I bought things to make the cake because I am going to make our Christmas cake this weekend. Now, let's make the cake for today's party!" (5)Bob was almost crying when he heard her words.

They had a good time when they were making the cake and talking in the kitchen. When they finished cooking, Kate took a picture of the cake. She said, "Thank you very much for helping me. This is the most delicious cake in the world." She looked very happy. They sat at the table and Bob said, "Merry Christmas!" (6)Everyone laughed and began to eat.

(注) wall 「壁」

問1 下線部(1)の理由として最も適当なものを下から選び、記号で答えなさい。

- ア Because Bob couldn't remember many things.
- イ Because Bob decided to take some pictures.
- ウ Because Bob put his pictures on the wall.
- エ Because Bob wrote important things on the wall.

問2 空所( 2 )に入る表現として最も適当なものを下から選び、記号で答えなさい。

- ア he helped his wife with cooking
- イ he could buy important things
- ウ he forgot what to write
- エ he left it at home

問3 下線部(3)に入る表現として最も適当なものを下から選び、記号で答えなさい。

- ア buy our Christmas presents
- イ look at your hands
- ウ take some pictures
- エ write what to do

問4 下線部(4)に入る語として最も適当なものを下から選び、記号で答えなさい。

- ア crying      イ shocked      ウ smiling      エ surprised

問5 下線部(5)の理由として最も適当なものを下から選び、記号で答えなさい。

- ア Because he was very impressed.
- イ Because his children were hungry.
- ウ Because he didn't know how to make a cake.
- エ Because he didn't have time to play baseball with his children.

問6 下線部(6)の理由として最も適当なものを下から選び、記号で答えなさい。

- ア Because Bob and his family enjoyed a delicious cake.
- イ Because Bob made a mistake.
- ウ Because Bob remembered what day it was.
- エ Because Kate and her children took pictures.

問7 So he decided to write important things on his hands. の入る場所として最も適当なものを下から選び、記号で答えなさい。

- ア  ア      イ  イ      ウ  ウ      エ  エ

問8 この物語に続く場面について、以下の空所  A  に入る英文として最も適当なものを下から選び、記号で答えなさい。

After the party, at night, Bob wrote a letter to Kate.

December 22
Dear Kate,
<i>Happy Birthday!!</i>
I'm very sorry for today. For Christmas, I haven't bought presents yet. Are you going to buy foods or presents? <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> I want to buy a bigger cake than today's one!
Love, Bob

- ア How many Christmas cards have you sent?
- イ Can you help with my cooking?
- ウ Why don't you go shopping with me tomorrow?
- エ Why don't we sing Christmas songs for our children?

問9 本文の内容と一致するものを下から二つ選び、記号で答えなさい。

- ア Bob's wife was beginning to forget something important.
- イ A lot of pictures were put on the wall to help Bob.
- ウ Bob forgot about the pictures his wife and children took.
- エ It was useful for Bob to write things on a piece of paper.
- オ Bob decided to draw a picture of a cake on his left hand.
- カ Bob wrote what to buy on his gloves when he went shopping.
- キ Bob's family enjoyed making a cake for Kate's birthday party.

配点：20点（各2点，問9は各2点）

正解 問1 ア      問2 エ      問3 イ      問4 ウ      問5 ア  
 問6 イ      問7 ウ      問8 ウ      問9 イ, キ

<抽出答案における【7】小問別正答率（%）>

学科・人数		全体	普通科	総合学科	商業科系	家庭科系	英語科系	他の学科
小問		3,204	2,843	148	52	72	16	73
問1		60.2	62.6	39.2	36.5	45.8	87.5	35.6
問2		27.7	28.3	16.2	25.0	26.4	62.5	23.3
問3		58.8	61.0	40.5	34.6	40.3	75.0	42.5
問4		71.7	73.5	58.1	61.5	59.7	100.0	39.7
問5		60.4	62.5	44.6	42.3	41.7	87.5	32.9
問6		29.9	31.3	20.9	15.4	13.9	43.8	13.7
問7		49.8	51.9	37.8	17.3	29.2	75.0	32.9
問8		63.0	65.3	48.6	42.3	33.3	93.8	39.7
問9	イ	50.3	52.6	37.8	19.2	23.6	81.3	30.1
	キ	55.0	56.8	35.8	38.5	48.6	68.8	39.7

調査校全体の正答率は52.7%であった。

<分析答案による誤答数>

小問	誤答数	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	無答
問 1	56	正答	37	13	6				0
問 2	76	4	19	53	正答				0
問 3	49	20	正答	14	15				0
問 4	42	17	16	正答	9				0
問 5	54	正答	11	36	7				0
問 6	88	39	正答	24	24				1
問 7	68	7	16	正答	44				1
問 8	45	17	21	正答	5				2
問 9	117	13	正答	27	27	21	20	正答	9

<考察>

問 1 は、Bob の妻の Kate と子どもたちが、Bob を心配した理由を問う問題である。調査校全体の正答率は 60.2%であった。誤答 56 例のうち、イ Because Bob decided to take some pictures. を選んだ誤答が 37 例と半数以上を占めていた。これは、Bob が物事を忘れやすいという状況を適切に読み取ることができず、直後の So they decided to take some pictures of things Bob forgot, ... から誤って判断したためと思われる。

問 2 は、何を買うべきかを紙に書いたという Bob の行動の後に続く内容を問う問題である。調査校全体の正答率は 27.7%と本問中最も低かった。誤答 76 例のうち、ウ he forgot what to write を選んだ誤答が 53 例と非常に多かった。これは、何を買うべきか紙に書いたが、それを家に置き忘れるという but の前後の文脈を、正確に捉えることができなかつたためであろう。

問 3 は、ケーキを買い忘れた Bob に対する、子どもの発言内容を問う問題である。調査校全体の正答率は 58.8%であった。誤答は分散しており、直後の I was wearing my gloves, so I couldn't see my hands. という Bob の言葉と関連付けて理解できなかつたと考えられる。

問 4 は、Bob がケーキを買い忘れたと分かった時の、Kate の様子を問う問題である。調査校全体の正答率は 71.7%と本問中最も高かった。直後の Kate の言葉に Don't worry. とあるので、理解しやすかつたようだ。

問 5 は、Bob が泣きそうになっている理由を問う問題である。調査校全体の正答率は 60.4%であった。誤答 54 例のうち、ウ Because he didn't know how to make a cake. を選んだ誤答が 36 例と半数以上を占めていた。前後の文で make the cake という表現が繰り返し用いられていることから、誤って判断し、Bob の心情を正確に読み取ることができなかつたのでであろう。

問 6 は、物語の最後で笑いが起こった理由を問う問題である。調査校全体の正答率は 29.9%とかなり低かつた。誤答は分散しており、Bob が Happy birthday! というべき場面で、誤って Merry Christmas! と言ってしまったという結末のおもしろさを理解できていない。

問 7 は、So he decided to write important things on his hands. を本文中の適切な位置に入れる問題である。調査校全体の正答率は 49.8%であった。誤答 68 例のうち、エ を選んだ誤答が 44 例と半数以上を占めていた。これは、挿入文の So の前後で表される原因と結果の関係を的確に捉えることができなかつたためであろう。

問 8 は、Bob が Kate に書いた手紙の内容を推測する問題である。調査校全体の正答率は 63.0%で

あった。誤答 45 例のうち、イ Can you help with my cooking? を選んだ誤答が 21 例あり、約半数を占めていた。これは、前後で用いられている foods や a cake という語から、料理をすることを連想したためであると考えられる。

問 9 は、本文の内容に一致するものを選択する問題である。調査校全体の正答率は、イが 50.3%、キが 55.0% であった。誤答は分散しており、物語の展開を考慮に入れて、概要や要点を正しく理解できなかったのであろう。

<指導上の留意点>

<問題点>

問 2, 6, 7 に見られるように、物語の場面や状況を考慮に入れて、登場人物の行動や心情を理解し、書き手の意図を読み取ることができない。

<具体的な指導例>

英文を読ませた後に、登場人物の行動や心情、書き手の意図を推測させる発問をし、ペアやグループで話し合わせたり、内容についての意見交換や発表をさせたりする活動を取り入れる。発問をする際には、物語の一部分のみがそのまま質問の解答とならないように配慮する。また、出来事の順序や因果関係を表す語 (but, so, and など) を含む部分も質問し、内容を整理して理解する習慣を身に付けさせる。

【英文と発問の例】

There was a man who loved his little boy very much. Every day after work, the man came home and played with the little boy.

One day, when the man was working in his office, he was asked to do a lot of work, but he ( 1 ). He thought, "I have to work at home. I can't play with my little boy this evening." He wanted to give the boy something to make him busy. He looked around the office. He found an old book with a large world map on the cover. Then (2) he got an idea. He tore off the map, and cut it up into small pieces.

When he got home, the little boy came to him and asked him to play. The man said to him, "I am sorry. I have a lot of work to do this evening, so I can't play with you now." The boy looked ( 3 ). Then he took the little boy into the dining room. He showed the small pieces of the map, and explained, "You can make a world map with these pieces. When you finish it, I will stop working and we can play together." The boy looked at the small pieces of paper and the boy didn't know much about the world. (4) The man thought, "It will take some time."

Only five minutes later, the boy came to the man and said, " ( 5 ) " The man was surprised and said, " ( 6 ) Let's go and see." In the dining room, he found a beautiful world map on the table. The man said, "How did you do that?" The boy said, "It was easy. There was a picture of a woman on the back of the paper."

(平成 22 年度愛知県高等学校第一学年入学者英語学力調査【7】長文読解問題の問題文を使用)

Question 1 (物語の続きを推測させ、内容を整理させる発問)

Guess how the story continues. Fill in ( 1 ).

Question 2 (要点をまとめさせる発問)

In the underlined part (2), what kind of idea did the man get? Please explain in English.

Question 3 (登場人物の心情を推測させる発問)

Guess how the story continues. Fill in ( 3 ), ( 5 ), and ( 6 ).

Question 4 (書き手の意図を読み取らせる発問)

In the underlined part (4), what did the man expect?

Question 5 (結末の理解を深めさせる発問)

Why did the little boy finish making the map in a very short time?

【解答例】

1: could not finish it

2: While he is doing his work at home, he will give his son the small pieces of paper to make a world map.

3: sad / I have finished it. / I can't believe it.

4: He expected that he could do his work for some time.

5: Because he used a picture of a woman on the back of the paper.

(8) 聞き取り問題

出題のねらい：英語の聞き取りによる理解度を測る。

【8】 この問題は、先生または放送の指示に従い、正しいものには○、そうでないものには×を付けなさい。正しい答えはそれぞれ一つしかありません。

Judy : Hi, Mike.

Mike : Hi, Judy. Welcome to my new room.

Judy : Thank you for inviting me. Oh, it's so nice.

Mike : Thank you. Anyway, I'm wondering where I should put my desk, bed, and guitar.

Judy : Your guitar? I didn't know you are interested in it. When did you start?

Mike : Just a few weeks ago. You know my friend Takashi, right? He can play the guitar very well. Next month, we will play together in our music class.

Judy : That sounds like fun. I'm sorry that we are not in the same class.

Mike : I'll play a song for you if you like.

Judy : Thank you, but not today. Now, you should think about your new room.

Mike : Oh, OK. I think my desk should be in front of the window. And my bed should be next to the desk. I can go to bed when I get tired.

Judy : That sounds nice. How about the guitar?

Mike : Of course, on my desk!

Judy : Then, where are you going to study? You must put it near the door, so you can't touch it when you study.

Mike : Oh, no!

Question 1 Where are Judy and Mike now?

- (a) In Mike's room.
- (b) In Judy's room.
- (c) In Takashi's room.
- (d) In a music room.

Question 2 What will Mike put in the room?

- (a) A desk, a guitar, and a table.
- (b) A chair, a guitar, and a table.
- (c) A bed, a chair, and a guitar.
- (d) A bed, a desk, and a guitar.

Question 3 When did Mike start playing the guitar?

- (a) Yesterday.
- (b) Today.
- (c) A few weeks ago.
- (d) Last month.

Question 4 Are Judy and Mike in the same class?

- (a) Yes, they are.
- (b) No, they aren't.
- (c) Yes, they do.
- (d) No, they don't.

Question 5 Where does Mike want to put his guitar?

- (a) On his desk.
- (b) Near the door.
- (c) On the table.
- (d) Next to his bed.

配点 10点 (各2点)

正答 Question 1 a (○) b (×) c (×) d (×) Question 2 a (×) b (×) c (×) d (○)  
 Question 3 a (×) b (×) c (○) d (×) Question 4 a (×) b (○) c (×) d (×)  
 Question 5 a (○) b (×) c (×) d (×)

本問は、会話文を聞いて、その内容をどの程度聞き取れたかを確認する問題である。問題を、「会話文→質問→会話文→質問→解答選択肢」の順で提示した。

本年度の内容は、Judy と Mike が新しい Mike の部屋で家具やギターの置き場所について話している会話である。問題文の語数は177語であり、昨年度の164語よりやや長くなっている。質問は、Yes または No で答える疑問文を1問 (Question 4) と疑問詞を使った疑問文を4問 (Questions 1, 2, 3, 5) とした。読みの速さは、例年同様、話し言葉の自然な速さとし、解答は、全ての選択肢に○または×を付けさせる形式とした。本問の調査校全体の正答率は75.1%であった。

<抽出答案における【8】小問別正答率(%)>

学科・人数 小問	全 体 3,204	普 通 科 2,843	総合学科 148	商業科系 52	家庭科系 72	英語科系 16	他の学科 73	
Question 1	75.1	78.6	80.0	68.9	51.9	73.6	100.0	63.0
Question 2		82.1	83.1	73.6	71.2	80.6	93.8	68.5
Question 3		78.8	80.2	76.4	55.8	69.4	93.8	50.7
Question 4		68.0	69.5	59.5	55.8	55.6	100.0	42.5
Question 5		68.1	69.8	51.4	53.8	61.1	87.5	52.1

<分析答案による誤答数>

小問	誤答数	(a)	(b)	(c)	(d)	無答
Question 1	13	正答	5	2	6	0
Question 2	16	5	2	9	正答	0
Question 3	17	2	6	正答	9	0
Question 4	35	23	正答	6	6	0
Question 5	29	正答	20	6	3	0

<考察>

Question 1 は、「Judy と Mike が今どこにいるか」を問うものである。調査校全体の正答率は 78.6%であった。会話の冒頭で Mike が Welcome to my new room. と言っているので、分かりやすかったと考えられる。

Question 2 は、「Mike が部屋に何を置かつもりか」を問うものである。調査校全体の正答率は 82.1%と本問中最も高かった。Mike が I'm wondering where I should put my desk, bed, and guitar. と言っているため、答えやすかったと思われる。

Question 3 は、「Mike がいつギターを弾き始めたか」を問うものである。調査校全体の正答率は 78.8%であった。Judy の When did you start? という問いの直後に Mike が Just a few weeks ago. と返答しているため、容易に理解できたようだ。

Question 4 は、「Judy と Mike が同じクラスにいるか」を問うものである。調査校全体の正答率は 68.0%であった。誤答 35 例のうち 23 例は (a) Yes, they are. であった。これは、Mike が言った We will play together in our music class. の We が Takashi と Mike であることを正しく理解せず、さらに Judy の I'm sorry that we are not in the same class. という発言を正確に聞き取れなかったと考えられる。

Question 5 は、「Mike がどこにギターを置きたいのか」を問うものである。調査校全体の正答率は 68.1%であった。誤答 29 例のうち 20 例は (b) Near the door. であった。これは、Judy の You must put it near the door, ... という言葉から誤って判断したと思われる。

<指導上の留意点>

<問題点>

Question 4, 5 のように、聞き取った情報を人物関係などに注意しながら整理して理解することができない。

<具体的な指導例>

リスニングでは聞き取った内容を整理し、正しく関連付けて理解することが大切である。特に、会話の登場人物が複数の場合には、誰の考えや行動なのかを注意させながら、個々の情報についてメモを取らせる。また、会話の内容理解を深めるような意見交換や発表をさせるとよい。

【内容理解を深めさせる質問の例】

Who will play the guitar together in the music class?

Where does Judy think Mike should put his guitar?

【聞き取った内容に関連した、生徒の考えや生徒自身のことについて問う質問の例】

Where do you think Mike finally put his guitar? Why do you think so?

What are there on your desk in your room?

What do you want to put on your desk?

Where do you put your school bag in your room?

What kind of room do you want? Draw a picture of the room and talk about it with your partner.